

	区分	6つの視点	整備の考え方(検討案)抜粋	第1回検討会での主な御意見	第2回検討会での主な御意見	市の整備の考え方
地域共生社会を 【基本コンセプト】 実現するための総合的な福祉の拠点	場所(移転先候補)	①移転・更新(移転先候補)	<p>【場所(移転候補地)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合福祉センターは、利用者の利便性をはじめ、安定的かつ継続的な福祉サービスの提供が不可欠 これまで調布駅近傍はもとより、市内における様々な民有地・公有地等について、移転候補としての可能性を模索してきた。 現行総合福祉センター機能に加えて、周辺福祉施設機能の集約・複合化に必要な用地や床面積を早期に確保していく必要があるため、令和元年11月に京王電鉄株式会社から市に対してまちづくりの提案があった京王多摩川駅周辺地区における交通便利性の高い民間開発を有力地としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合福祉センターの移転に絶対反対という意見はなかったため、京王多摩川駅周辺への移転は、選択肢としてあり得ると合意ができた。 他の候補地の中では京王多摩川が一番良い。京王多摩川の現状として、人の行き来も少なく、生活の基盤となるお店も少なくなっているため、総合福祉センターの移転を機に、活気のあるまちになると期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> 無条件で移転するのではなく、「アクセシビリティ(交通の便・利用しやすさ等)」や「調布駅周辺の福祉機能」の課題(条件)を解消できるような条件をつけたうえで議論を進めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合福祉センターの整備に当たっては、総合福祉センター基本機能の維持・向上、アクセシビリティ(交通の便・利用しやすさ等)、災害への備え等に関する留意事項等を踏まえた検討を行うとともに、令和元年11月に京王電鉄株式会社から市に対して「まちづくり提案」のあった、京王多摩川駅周辺地区における駅前複合拠点地区への移転に向けた取組を進める。
	主要な機能等	②新たな総合福祉センターの機能充実等	<p>【総合福祉センター基本機能の維持・向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各機能について、上下移動の少ない2フロアに機能を集約し、現行機能の維持を基本として一部拡充も含め床面積を確保するとともに障害者等に配慮した3mの廊下幅員(現状2.5m)の確保、駐車場や屋根のある車寄せの設置など基本機能を向上 <p>【周辺福祉施設機能の集約・複合化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 休日・夜間診療等の拠点に関する機能の拡充及び集約・複合化や高齢者の健康づくり、生きがいづくりに関する機能の集約・複合化による総合福祉センター機能の充実・強化 <p>【地域共生社会づくりの拠点にふさわしい将来を見据えた機能改善の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談室や集会室の充実など、様々な市民が利用できる施設として、地域の福祉拠点機能を強化 	<ul style="list-style-type: none"> 移転をしたら、今の機能を維持することはもとより、プラスの機能を付け加えて、移転をして良かったと思っていただけるようにするべきである。 全ての機能を集約するのではなく、地域共生社会の理念のもと、エリアがあってそこで活動できるようランチを整備することも検討する必要がある。 誰もが利用できるような公共性の高い施設が入ると良い。 現在の総合福祉センターは、調布駅前が一番相談できるとも安心感のある場所である。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の総合福祉センター機能は維持する必要があると考える。当事者の方から良く話を聞き、今より利用しにくくならないようにしていただきたいと思う。 後期高齢者が増えていくこともあり、様々な事業を展開していく上で、より多くのスペースを確保していただきたい。 フロアを集約することで幅広く事業が見えることと現在の機能が維持されるということについては非常に安心することができる。広いスペースを確保することも良いことだと思う。 移転後については、ユニバーサルデザインの建物をコンセプトに掲げ、現在の機能維持を大前提に、更に使い勝手の良い建物としてほしい。 生活困窮者相談支援や子ども・若者居場所事業を利用する方の視点から、プライバシーを守る設計としてほしい。また、フロアを集約する場合、事業内容を踏まえて部屋を分けるなど、事故の無いようにしてほしい。 調布駅周辺の福祉機能の議論については、今後、どのような場で行っていくのか。 新たなグリーンホールの一角に、総合相談機能、通いの場、共生カフェ、使途を限定せずに活用できる多目的なスペースなどのほか、社会福祉協議会の職員が常駐し、いつでも対応してもらえるような形も良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域共生社会の実現に向けた機能改善の検討、周辺福祉機能の集約・複合化 具体的な機能や設備等の検討に当たっては、「整備に関する考え方」の基本的な方向性を踏まえて、高齢者、障害者等の利用者や関係団体等の御意見等を適宜、伺いながら検討 施設・設備の経年劣化への対応 センターで実施している事業・相談、事務室、団体室等のスペース不足への対応 様々な市民が利用できる施設として、地域の福祉拠点の機能を強化 京王多摩川駅からの利便性の高いアプローチの設置検討、障害者・高齢者が来館時に雨に濡れない専用の車寄せの設置検討、専用駐車場・駐輪場の確保検討などの利便性向上への対応 調布駅周辺の公共・民間施設を活用することにより、安心して相談などができる交流・居場所機能や福祉機能等について、確保することを検討
		③災害対応	<p>【浸水対応・福祉避難所に関する考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 浸水想定を踏まえ2階以上に総合福祉センター等機能を設置 風水害時における発災前から発災後の段階ごとの課題分析を踏まえ、発災前から発災後の総合福祉センター機能の確保、及び福祉避難所の確保など災害時の対応策を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 多摩川に近い地域であるため、心配な点もある。特に障害のある方が避難できる防災の拠点となる場所を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害が発生した際の継続的な施設機能の維持に係る視点や、新型コロナウイルスだけでなく、常態化する可能性がある感染症への対策についても盛り込む必要があると考える。 新たな総合福祉センターは、水害時の避難所とならないのであれば、どこを避難所とするのかを決めて、障害者の方がどこに行けばよいのか、どのように行動すればよいのかを十分に検討してほしい。 水害時に京王多摩川駅周辺の施設に避難所としての機能を期待するというよりは、市として別の場所を避難所として検討しても良いのではないかと感じた。 何が何でも総合福祉センターに避難所機能を持っていく必要はなく、市全体で考えて行く必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 電源設備等の上層階への設置や、垂直避難ができるよう主要な機能の2階以上への配置を検討 日常的に使用している施設機能等を災害時においても活用していくなど、平常時と災害時を区別しない災害対応等に向けた施設・設備等の整備を検討 風水害時における福祉避難所について市全体で総合的に確保することなどの災害時の対応策を検討 感染症に対するこれまでの対応、経験等を踏まえた、今後の取組等を検討
	京王多摩川駅周辺のまちづくり	④利便性の確保	<p>【災害対応・ユニバーサルデザイン・利便性向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京王多摩川駅改札から最も至近距離にある棟への総合福祉センター機能の移転に加え、道路の段差解消など、まちづくり全体でユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 電車の乗り換えが大変な視覚障害者や車いすの方への移動手段の確保など、アクセシビリティ(交通の便、利用しやすさ等)が重要である。 京王多摩川駅については、エレベーターの台数やホームの形状の問題などにより、使い勝手が悪いと感じている。 調布駅から移転先の総合福祉センターまでシャトルバスを運行する必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 無条件で移転するのではなく、「アクセシビリティ(交通の便・利用しやすさ等)」や「調布駅周辺の福祉機能」の課題(条件)を充足できるような条件をつけたうえで議論を進めたい。 多面的にアクセシビリティを高めていく必要があると考える。 シャトルバスやバリアフリー対応のコミュニティバスを運行することも、有効になってくるのではないかと感じた。 生活困窮者もいるので、できる限り費用のかからない形で検討して欲しい。また、放課後等デイサービスびっころは公共交通機関の利用が困難なお子さんもいるため、送迎を付けてほしい。 障害者は、車の使用者が非常に多いので、広めの駐車場を作ると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や障害者に配慮した施設の需要が高まっていることなどを踏まえた東京都福祉のまちづくり条例や施設整備マニュアル等に基づく整備 エレベーター、多目的トイレの設置、障害者等に配慮した3m程度(現状2.5m)の通路幅員確保(車いすのすれ違い可)等を検討 非常時にエレベーターが使用できないことを想定し、障害者等の避難経路の確保を検討 京王多摩川駅に関わる利便性の確保について、必要な事項を事業者に要請・協議等を行うことを検討 移転・更新に当たっては、高齢者、障害者等の多様な利用者の状況を踏まえて、多面的な視点からアクセシビリティ(交通利便性、利用しやすさ等)に配慮するとともに、ハード・ソフト両面から、ユニバーサルデザイン・バリアフリー、必要な移動手段の確保等を検討
	⑤京王多摩川駅周辺のまちづくり	<p>【民間開発事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 京王多摩川駅周辺地区における交通便利性の高い民間開発を有力地として、引き続き、移転先候補の選定に向けて、関係者との協議・調整を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 京王多摩川駅周辺への移転・更新に当たっては、移転先候補の民間開発事業者(京王電鉄株式会社)との折衝・交渉が重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合福祉センターが京王多摩川駅周辺に移転することにより、まちの魅力向上につながるということは京王電鉄に伝えていただきたい。 開発の中で福祉が重要になるといった観点も入れながら、今回の新たな総合福祉センターの整備が、新たなモデル事業になっても良いのではないかと感じた。 新たな総合福祉センターが移転することによって、福祉を中核としたまちづくりを進めていく中で、地域の魅力となり、高齢者や障害者の方が移り住むこともあると思う。 京王多摩川駅周辺にマンションや公園があるといった魅力だけでなく、駅前に福祉の拠点があるという意味では、移転先の京王多摩川駅の発展性を考えると非常に有効な立地だと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな総合福祉センターの整備をはじめとして、京王多摩川駅周辺のまちづくりにおいて、地域共生社会の実現に向けた中長期的な観点から、事業者(京王電鉄株式会社)や関係者と協議・調整を推進 	
	⑥調布駅周辺の福祉機能	<p>【調布駅周辺の福祉機能に関する考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流・居場所機能や福祉機能等の一部について、調布駅周辺に確保することを検討 	<ul style="list-style-type: none"> 移転に当たっては、調布駅前に総合福祉センターの機能の一部を残してほしい。 社会福祉協議会の出先機関とした意味合いも残してほしい。 	第2回検討会でのご意見を踏まえて、視点②へ統合		